

北海道医療大学歯学部付属病院口腔外科における紹介患者の臨床統計

著者名(日)	川上 譲治, 岡田 文吉, 茂尾 公晴, 武田 成浩, 高畑 友, 辻 祥之, 山本 圭子, 奥村 一彦, 武藤 壽孝, 金澤 正昭, 足立 愛朗, 谷口 茂紀, 佐々木 智也, 永易 裕樹, 有末 眞
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	21
号	1
ページ	121-126
発行年	2002-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00008685/

〔調査報告〕

北海道医療大学歯学部付属病院口腔外科における紹介患者の臨床統計

川上讓治, 岡田 文吉*, 茂尾 公晴, 武田 成浩, 高畑 友, 辻 祥之,
山本 圭子, 奥村 一彦, 武藤 壽孝, 金澤 正昭, 足立 愛朗**,
谷口 茂紀**, 佐々木智也**, 永易 裕樹**, 有末 眞**

北海道医療大学口腔外科学第一講座
*浦臼町立歯科診療所
**北海道医療大学口腔外科学第二講座

** (主任: 有末 眞教授)

Clinical analysis of patients introduced to the oral and
maxillofacial clinic of the Health Sciences of University
of Hokkaido Dental Hospital

Johji KAWAKAMI, Bunkichi OKADA*, Kimiharu SHIGEO, Shigehiro TAKEDA,
Yuu TAKAHATA, Nobuyuki TSUJI, Keiko YAMAMOTO, Kazuhiko OKUMURA,
Toshitaka MUTO, Masaaki KANAZAWA, Yoshirou ADACHI**, Shigeki TANIGUCHI**,
Tomoya SASAKI**, Hiroki NAGAYASU**, and Makoto ARISUE**

First Department of Oral and Maxillofacial Surgery,
School of Dentistry, Health Sciences University of Hokkaido
*Urausu Public Dental Clinic.

**Second Department of Oral and Maxillofacial Surgery,
School of Dentistry, Health Sciences University of Hokkaido

** (Chief : Prof. Makoto ARISUE)

Abstract

Oral surgery is a specific medical service, and introduced patients are very important for the department of oral surgery of our dental school hospital as a tertiary medical facility. Therefore, it is significant to investigate details related to this.

The subjects of this study are patients introduced from other medical facilities to the Department of Oral surgery of the Health Sciences University of Hokkaido as first-time patients from April 1995 to March 2000. The number, proportion of first-time patients, diseases, hospitalization needs, and place of residence of introduced patients, and the number of facilities introducing patients by districts were investigated.

The results are shown below.

- 1) 757 (24%) of 3206 first-time patients in our department were introduced patients in these five years.

- 1) 757(24%) of 3206 first-time patients in our department were introduced patients in these five years.
- 2) The complaints involved wisdom teeth-related lesions: 246(33%); odontogenous infections unrelated to wisdom teeth: 72(10%); odontogenic cysts: 69(9%), temporomandibular complaints: 49(6%); and others: 323(4%).
- 3) 212(26%) of the patients were hospitalized.
- 4) The number of facilities introducing patients was 177.
- 5) The introduced patients came from Sorachi: 336(44%), Ishikari: 272(36%), Rumoi: 43(6%) and other districts: 106(14%).

His concluded that it is necessary to maintain close relations with medical facilities and to fully inform them of our oral surgery service as a tertiary medical facility for more patients to be introduced.

Key words : Introduced patient, Introduced facility, Clinical analysis.

はじめに

歯科医師卒後研修医制度の義務化を間近に控え、本学歯学部でも卒後研修の充実が緊急の課題となっているが、研修のための患者の確保も必要不可欠の要件の一つである。とくに、口腔外科の研修では他施設からの2次ないし3次医療を必要とする紹介患者が重要な位置を占める。

北海道医療大学には浦臼町立歯科診療所(以下、浦臼診療所)、苫小牧市の緑星の里歯科診療所(以下、緑星の里)、札幌市北区の医科歯科クリニックなど本学直属の関連施設があり、これらの施設から本学附属病院口腔外科への紹介患者も少なくない。そこで今回、初診患者のうちでこの3つの施設、さらに一般の歯科診療所や病院から本学附属病院(以下、本院)の口腔外科に紹介された患者について臨床統計的に検討した。

対 象

平成7年4月1日から平成12年3月31日までの5年間に本院口腔外科の初診患者のうち当科

へ紹介された患者について検討した。

結 果

1. 紹介患者数

本院口腔外科の5年間の年度別の初診患者数は、平成7年度668名、8年583名、9年609名、10年630名、11年716名で、5年間の合計は3206名で、年度により多少の差がある。

このうち、紹介患者は平成7年度127名、8年147名、9年160名、10年165名、11年158名で、5年間の合計は757名で初診数に占める割合は24%であった(図1)。

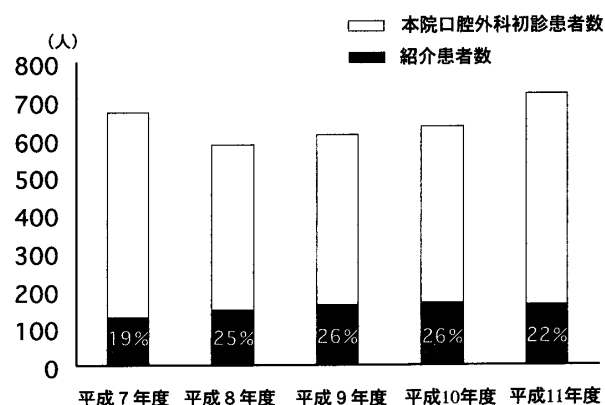


図1 本院口腔外科の初診患者と紹介患者の割合

2. 紹介患者の疾患別分類

紹介患者を疾患別にみると、智歯周囲炎や埋伏智歯などの智歯関連疾患が多く246名（33%）であった。次いで、智歯以外からの歯性感染症72名（10%）、歯原性嚢胞67名（9%）、顎関節疾患49名（7%）、奇形・変形症43名（6%）、上顎洞疾患42名（6%）、智歯以外の埋伏歯36名（5%）、非歯原性の良性腫瘍33名（4%）、外傷25名（3%）、悪性腫瘍22名（3%）、唾液腺疾患19名（3%）、歯原性腫瘍15名（2%）、粘膜疾患15名（2%）、アレルギー疾患14名（2%）、その他59名（8%）であった（図2）。

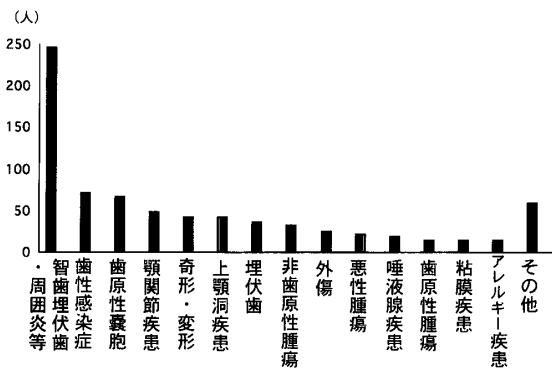


図2 疾患別の分類

3. 紹介入院患者数

紹介患者757名のうち入院下での治療を要した患者は212名（28%）であった。ちなみに、自意にて来院した患者も含めた過去5年間の本院の入院患者の総数は827名であった（図3）。

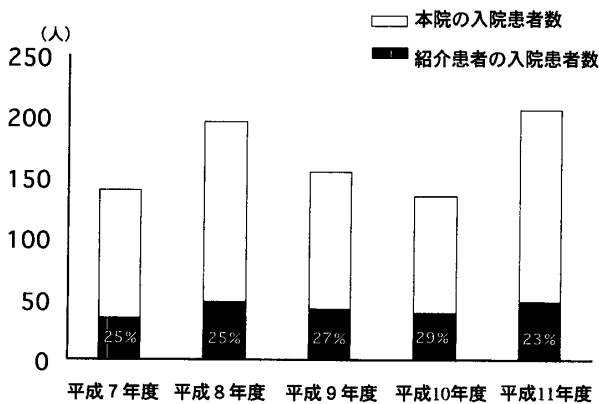


図3 入院患者における紹介患者の割合

なお、前記の関連施設から紹介された患者のうち浦臼診療所からは37名中5名（14%）が入院を要し、緑星の里21名中20名（95%）、医科歯

科クリニック19名中10名（44%）が入院加療を要した（図4）。

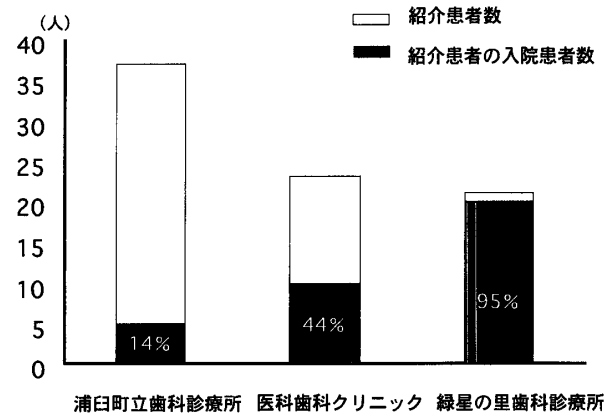


図4 関連施設からの紹介患者の外来と入院患者数の割合

また、紹介患者の大多数を占める智歯関連疾患の処置は、ほとんどが智歯の抜去であるが、このうち212名（86%）が外来での処置であり、入院下にて処置されたものは34名（14%）であった。

4. 紹介施設数とその分類

757名の紹介患者の紹介施設数の合計は177施設であった。年度別にみると（各年度で重複あり）平成7年度59施設、8年64施設、9年80施設、10年60施設、11年63施設であった。

患者の紹介施設を診療科別にみると歯科からの患者が717名（95%）、医科からのものが40名（5%）で、さらに医科からの紹介患者は、内科20名、耳鼻咽喉科10名、整形外科5名、形成外科2名、脳神経外科2名、外科1名であった。

また、本学関連施設からの紹介患者をみると

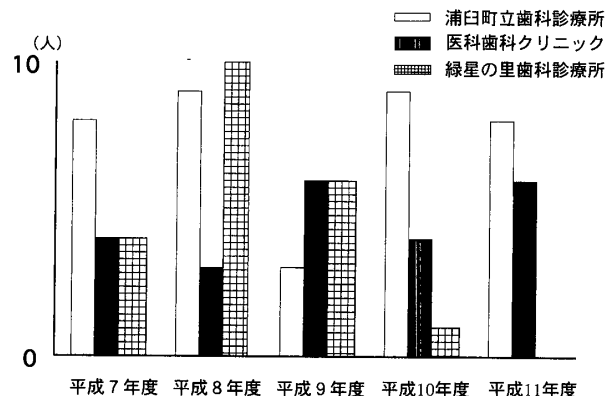


図5 関連施設からの紹介患者の推移

5. 紹介患者の居住地と施設の所在地

紹介患者の居住地を市町村別にみると全紹介患者757名のうち札幌市が最も多く121名(16%)で、その中でも北区が60名と半数を占めていた。次いで、滝川市が102名(13%)、月形町59名(8%)、江別市58名(8%)、砂川市51名(7%)、留萌市42名(6%)、浦臼町37名(5%)、当別町33名(4%)、新篠津村32名(4%)、美唄市29名(4%)、小樽市23名(3%)、苫小牧市22名(3%)、岩見沢市19名(3%)、石狩市16名(2%)、新十津川町15名(2%)、旭川市10名(1%)、その他88名(12%)であった(図6)。

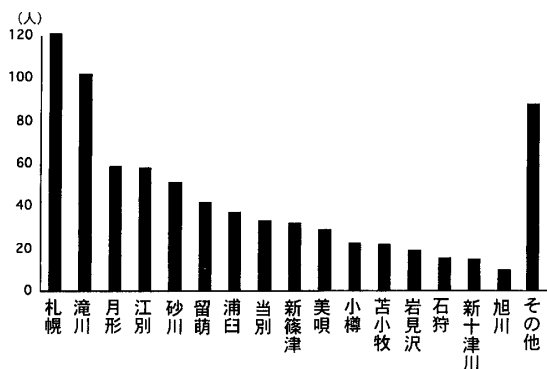


図6 紹介患者の市町村別分類

これらを、北海道内14支庁と道外に分類すると、空知支庁(滝川市、月形町、砂川市、浦臼町、美唄市、岩見沢市、新十津川町など)が336名(44%)と最も多く、次いで石狩支庁(札幌市、江別市、当別町、新篠津村、石狩市など)が272名(36%)、留萌支庁(留萌市など)が43名(6%)、胆振支庁(苫小牧市など)が34名(5%)、後志支庁(小樽市など)が26名(3%)、上川支庁(旭川市など)が20名(3%)、日高支庁が7名(1%)、渡島支庁が6名(1%)、その他として網走、十勝、釧路支庁および道外が13名(2%)であった(図7)。

紹介患者757名の紹介施設数は合計177施設であったが、市町村別にみると札幌市が48施設(27%)、江別市16施設(9%)、岩見沢市と滝川市がそれぞれ11施設(6%)、砂川市9施設(5%)、小樽市6施設(3%)、当別町5施設

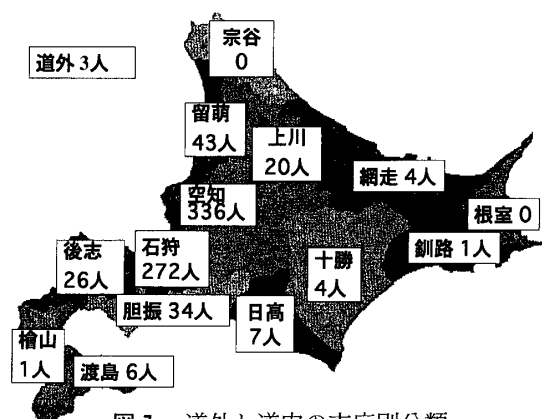


図7 道外と道内の支庁別分類

(3%)、旭川市、石狩市、月形町および美唄市がそれぞれ4施設(2%)、帯広市、千歳市および留萌市がそれぞれ3施設(2%)、その他の市町村と道外が46施設(26%)であった(図8)。

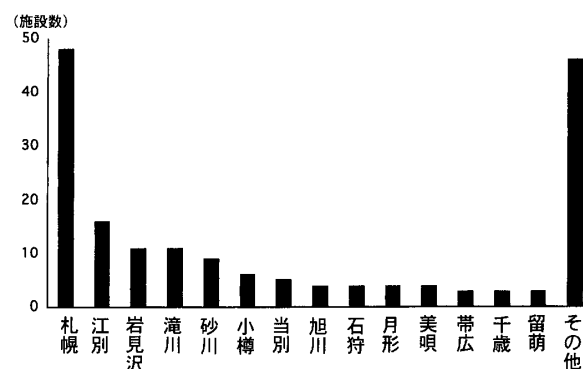


図8 市町村別の紹介施設数

これら市町村別で、1施設あたりの紹介患者数の平均を算出すると、浦臼町では施設数は1で、1施設あたりの患者数は37名と圧倒的に多く、新篠津村では1施設あたりの患者数は16名、次いで新十津川町15名、月形町14.8名、留萌市14名、苫小牧市11名、滝川市9.3名、美唄市7.3名、当別町6.6名、伊達市6名、砂川市5.7名、長万部町5名、上川町5名、鶴川町5名、札幌市は48施設で2.5名で、全体の1施設あたりの平均は4.3名であった(図9)。

総括および考察

1. 紹介患者数について

紹介患者数は平成7年度は127名で、その後やや増加していたが、平成9年度以降は160名前後

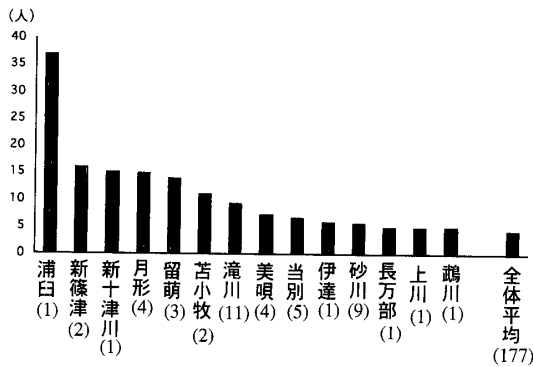


図9 市町村別での1施設あたりの紹介患者数
()内は施設数

総括および考察

1. 紹介患者数について

紹介患者数は平成7年度は127名で、その後やや増加していたが、平成9年度以降は160名前後で横ばい状態にあり増加傾向はみられなかった。一般に、紹介患者数は卒業生の増加や病院の経年に伴い徐々に増加すると考えられるが、本院では平成9年度以降あまり変化がなかった。このことは、各地の口腔外科施設の増加と充実¹⁾によることが、一因と考えられる。

2. 疾患別の分類

紹介患者のうち、智歯関連疾患が1/3と多くを占めていたが、これは日常の一般の歯科診療所では遭遇する機会が多い疾患であるためと考えられる。次いで菌性感染症、歯原性嚢胞、近年増加している顎関節疾患²⁾、奇形・変形症などの順であった。このうち、奇形・変形症は6%を占めていたが、そのほとんどが顎変形症であった。和久田ら³⁾は、入院症例のうち顎変形症は13.1%を占めるとしているが、本院では入院患者のうち、顎変形症患者は、過去5年間で79名(9.6%)であった。

3. 入院患者について

入院患者のうち、紹介患者の占める割合は年度により差異はあるが、その平均は26%であった。杉本は⁴⁾、入院患者109例のうち紹介患者は40例(36.7%)であったとしているが、これは

口腔外科を中心とした有床の歯科診療所であるためと考える。

また、本学の関連施設に限ってみると、紹介患者に対する入院患者の割合は、緑星の里95%、医科歯科クリニック44%、浦臼診療所14%で、それぞれの診療体系の特徴による差異がみられた。すなわち、緑星の里からの紹介患者はほとんどが障害者で、全身麻酔下での入院処置が必要な患者が大多数を占めていることに起因している。一方、医科歯科クリニックでは、外来での口腔外科処置は同クリニックで行われることも多いが、施設・設備面などから本院に紹介される例も少なくない。また、浦臼診療所では一般の歯科診療を希望する患者が多く、一部の口腔外科疾患難症例が、本院に紹介されているものと考えられる。

4. 紹介患者の居住地・紹介施設について

患者の居住地や紹介施設の所在地を市町村別にみると、札幌市が最も多く、紹介患者数はその内のほぼ半数が北区であった。次いで滝川市、月形町、江別市であったが、これらは地理的条件から本院への通院が比較的容易なためと考えられた。

一方、支庁別にみると空知支庁すなわち滝川市、月形町、砂川市、浦臼町、美唄市などからの患者が多いが、空知支庁には口腔外科の2次、3次医療機関が少ないためと考えられる⁵⁾。

以上をまとめると本院を中心に、交通網からみて本院より末梢にある空知・留萌支庁の紹介患者数が多いが、これに比し札幌圏からのいわゆる逆流患者は少なく、その比は3:2であった。

尾崎ら⁶⁾は、紹介診療科別に493名の患者の受診経路について調査したが、歯科の初診例が62%で、医科の初診例が38%であったとしている。本院では95%が歯科からのものであったが、これは、紹介患者が智歯関連疾患や菌性感染症など歯に関連した疾患が多いため、患者が近隣の歯科を受診した例が多かったためと考えられ

た。

なお、われわれの渉猟した範囲では、この種の統計的観察の報告はほとんどないため、十分な考察ができなかった。しかし、以上のことから、新たな患者収集ルートの開発には、交通網によるヒトの流れを考慮した医療機関へのアピールの重要性と患者のニーズに対応するための特徴ある施設・設備の充実の必要性が示唆された。

結 論

平成7年4月1日から平成12年3月31日までの5年間に、本院口腔外科に紹介された患者について臨床的に検討し、以下の結果を得た。

1. 総紹介患者数は757名で初診患者の24%を占めていた。
2. 疾患別では、智歯関連疾患患者が最も多く33%であった。
3. 紹介患者のうち、入院加療を要した患者は、217名(28%)で総入院患者の26%を占めていた。
4. 紹介施設数は177で、診療科別では、歯科からのものが95%を占めていた。

5. 患者の居住地を支庁別にみると、空知支庁が44%と最も多く、次いで石狩支庁が36%であった。

このことから、紹介患者の増加には近隣の歯科や医療機関との密接な連携が重要であることが示唆された。

謝 辞

稿を終えるにあたり、本調査にご協力頂いた本院事務部に深く感謝いたします。

文 献

1. 池畑正宏, 中村博行, 山下徹郎, 他: 北海道病院歯科医会の現状(第1報) - 北海道病院歯科医会の紹介. 道歯会誌 57: 211-212, 2002. .
2. 小松賢一, 高地義孝, 高地智子, 他: 顎関節症の臨床統計的観察. 日顎誌 5: 89-100, 1993.
3. 和久田哲生, 伊東隆三, 西村賢二, 他: 当院における外科的矯正治療の臨床統計的観察. 日顎変形誌 4: 177-183, 1994.
4. 杉本是孝: 当歯科診療所における入院患者109名の統計観察. 日口外誌 29: 1951-1956, 1983.
5. 尾崎登喜雄, 民本和子, 田中庸皓, 他: 過去4年半にわたる, 当科外来患者の受診経路について. 日口外誌 18: 151-156, 1972.